

# ODA

発行 社会福祉法人 沖縄県身体障害者福祉協会  
 編集 沖縄県障害者社会参加推進センター  
 〒901-0516 沖縄県島尻郡八重瀬町字仲座 1038 番地 1  
 TEL(098)851-3455 FAX(098)851-3855  
 ホームページアドレス <https://www.okisin.jp>  
 Eメールアドレス [okisinky@blue.ocn.ne.jp](mailto:okisinky@blue.ocn.ne.jp)  
 頒価一部 100 円（会費に含まれています）

## 沖縄県障害者社会参加推進センターだより 第72号

### 令和7年度 音声機能障害者発声訓練指導員養成研修

喉摘者が声を取り戻す為の適切な手段を知り、再び声を取り戻して家族や友人と会話を交わし、職場や社会に復帰して以前と変わらない活動を行なう事を目的に、令和7年12月6日（土）に宮古地区（宮古島市中央公民館）、7日（日）に八重山地区（障害者支援施設ハーモニー）において音声機能障害者発声訓練指導員養成研修を開催しました。

研修においては、沖縄県友声会の田名会長より音声機能障害者がかかえる悩みや課題、その経験をとおして理解を深めてもらう講義にはじまり、発声の仕組みとその理論について学び、EL（電気式人工喉頭）発声についての体験も行なってもらいました。



12月6日 宮古地区



12月7日 八重山地区



昨年に引き続き、当事者をはじめ支援者や関心のある方にもご参加いただいたことで、声を失った方が第2の声を取り戻すための3種の発声方法があるということを広く伝えられたことは、とても意義深いものだったと感じています。

今後も関係機関・団体と連携しながら、音声機能障害について正しく理解が深まるよう取り組んでいきたいと思いますので、引き続き関係者の皆様のご協力をお願いいたします。

### 沖縄県身体障害者福祉協会

#### 第65回沖縄県身体障害者福祉展

令和7年11月25日（火）～30日（日）、南風原文化センターを会場に、標記展示会を開催しました。25日のオープニングセレモニーでは出展団体の『障害者支援施設 青葉園』さんが作成した福祉展看板のお披露目、『南風原賞』の表彰、テープカットを行ないました。今回は南風原町のゆるキャラ『はえるん』にも出席いただき、手話も混じえた来賓祝辞をいただきました。



65回目を迎えた今回は、宮古島市、伊平屋村などの離島を含む全34団体279作品の出展があり、個性豊かな力作たちが来場者を楽しませてくれました。また、会場受付には『北中城村紙粘土サークル』『糸満市身体障害者協会』のコラボ作品の盛花が飾られており、本物そっくりの粘土のお花に見学者は皆おどろいていました。期間内には596名と、昨年度を超える多くの方々の来場がありました。

本福祉展をオンラインで配信する『バーチャル福祉展』は令和8年3月中頃に公開を予定しております。公開時にはぜひ閲覧をよろしくお願いいたします。



## 沖縄県手をつなぐ育成会

第64回九州地区手をつなぐ育成会沖縄大会



令和7年10月18日（土）、那覇市のパシフィックホテル沖縄にて、第64回九州地区手をつなぐ育成会沖縄大会を開催致しました。

本大会には、全国手をつなぐ育成会連合会の佐々木桃子会長と又村あおい常務理事、厚生労働省・福祉専門官の松崎貴之様にもご参加いただき、九州各県や沖縄県内各地域から、全体会に約350名、本大会には約100名の参加者が集いました。皆様のご参加に深く感謝申し上げます。

2008年の障害者権利条約発効後、日本では障害者基本法の見直しを始めてとする多くの法制度改革が行われてきました。これにより、障がい者が豊かで充実した社会生活を送るための環境整備が進展し、共生社会の実現に向けた期待も高まっています。

また、障害者差別解消法の改正により、民間事業者に対して合理的配慮の義務化が導入され、障がい者に対する差別や偏見に対する意識も向上しています。

しかしながら、災害大国とも呼ばれる日本にもかかわらず、障がい者の避難に関する相談体制等の整備は未だに十分とは言えません。さらに、物価高騰による厳しい社会情勢の中、年金に頼って生活している多くの障がい者は、自立した社会参加が妨げられている現状もあります。

2022年に国連から勧告を受けた障がい者の地域移行推進についても、多くの課題が残されており、親亡き後の子供やきょうだいの生活に不安を抱える保護者の声は絶えません。

本大会では、学齢期の現状や福祉的な就労現場の検証を行い、有識者の皆様から貴重なご提言をいただきました。さらに、偏見や差別のない共生社会の実現に向けて、議論を重ね、障がいのある人への理解啓発を推進する支援体制についても幅広く研究・討議を行いました。

## 沖縄県精神保健福祉会連合会

沖福連・家族大会2025の開催

令和7年10月18日（土）、シャボン玉石けんくくる糸満にて、精神保健福祉研修会『家族大会2025』を開催しました。

今年度の大会では、愛媛県愛南町より精神科医の長野敏宏先生と作業療法士の田上（たのうえ）純一氏を招き、“精神科病棟をなくした町”愛南町の取り組みについて学びを深めています。

愛南町は、かつて町の存続が危ぶまれるほど深刻な危機に直面していたそうです。大企業の工場撤退で失業者があふれ、さらに少子高齢化が町を急速に衰退させていきました。そうしたなかで、町の精神科「御荘（みしょう）病院」は、すべての病棟を閉鎖し「御荘診療所」として再出発しました。人口減少と高齢化という町の構造的課題に対して、精神科医療の転換を地域再生の第一歩とした愛南町の試みは、私たちに大きな示唆を与えてくれます。

漁業（アマゴの養殖など）から農業（米、椎茸、柑橘、アボカド、ユーカリなどなど）まで深く町の産業を手がける田上さんは、もはや「作業療法士」という役割ではとても括ることができないし、それは「社会の文化を変えていく」という長野先生の一貫した信念に根差した取り組みの反映のように感じられました。



長野敏宏氏（精神科医）



田上純一氏（作業療法士）

講演会の文字起こしも含む大会の様子を収録した報告集『地域と、いきる』を現在制作中です！希望される方には無料で配布を予定していますので、関心のある方はお気軽にご連絡ください（送料のみ別途ご負担をお願いしています）。

連絡先：098-889-4011（沖福連・増山、比嘉）もしくは沖福連のホームページより【お問い合わせフォーム】をご利用ください。

## 沖縄県視覚障害者福祉協会

手引きの援助（仕方・され方）と機器の展示会

令和 7 年 8 月 2 0 日（水）歩行訓練「手引きの援助（仕方・され方）」、視覚障害者に関する機器の展示会を宮古島の会員や関係者を対象に行ないました。

手引きの援助（仕方、され方）の講習に関しては、普段は資格を持ったガイドヘルパーと歩くことができますが、手引き歩行を知らない人が間違っただ誘導をした際にどのような対応が必要なのかを話し合いました。

実際に一人ずつ前に出てもらい、職員がわざと間違っただ誘導（押す、引っ張る、白杖をつかむ）をした際に「肘（肩）をつかませてください」など、正しい手引きの情報を教えることが出来るようにして欲しいと伝えました。



また、外出先等で困った際のポーズ（白杖 SOS シグナル）についても共通理解を行いました。  
1 2 月は石垣島で開催予定をしています。

## 日本オストミー協会沖縄県支部

ホームページ・LINE の開設

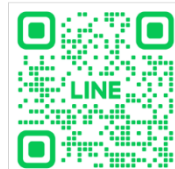
この度日本オストミー協会沖縄県支部ではホームページを開設いたしました。活動内容の報告やサロン会のお知らせ、会員拡大をめざし活用していきます。



また、公式 LINE も開設しています。以下の QR コードから登録をよろしくお願いします。



ホームページ



公式 LINE

今後も沖縄県内にお住まいのオストメイトの社会的自立、日常生活の QOL 向上のため活動していきますのでよろしくお願いします。

## 共生社会条例に関するアンケートにご協力ください

沖縄県では、障害のある人もない人も全ての県民が等しく地域社会の一員としてあらゆる分野に参加できる共生社会の実現を目指してこの条例を作りました。

沖縄県に共生社会条例ができて 1 1 年、条例ができてよかったことや、まだ実現していないことなどを調査するため、アンケートを実施します。

障害のある人もない人もみんなが暮らしやすいまちを作るため、みなさんの声が必要です。アンケート回答のご協力をよろしくお願いします。

### 【実施期間】

令和 7 年 1 2 月 1 日～

令和 8 年 2 月 1 5 日



アンケートの回答はこちらから



# おきしんきょう通信

— 沖縄県身体障害者福祉協会 —



経営理念

一、利用者本位

一、社会貢献

一、責任と実行

## 第61回

### 沖縄県身体障害者スポーツ大会

競技等を通じスポーツの楽しさを体験するとともに、県民の障害に対する理解を深め、障害者の社会参加の推進に寄与することを目的に『第61回沖縄県身体障害者スポーツ大会』を開催しました。離島地区も含めて総勢629名の申し込みがあり、前回大会から導入しているオープン枠（障害区分や年齢制限を緩和した参加方法）の選手数も増え、50名の皆様に初参加いただきました。残念ながら台風23号が沖縄本島地方に接近する見込みを受けた陸上競技は中止となってしまいましたが、開催に向けて多大なご支援、ご尽力をいただきました多くの皆様に感謝し、今後もより良い大会運営となるよう進めてまいります。

※例年4月開催通知、7月上旬頃に申込期限を設けています。大会へ参加を希望される方はお住いの市町村福祉課へお問い合わせください。



- ・8月10日（日）アーチェリー競技  
／県立鏡が丘特別支援学校
- ・8月23日（土）フライングディスク競技  
／沖縄市陸上競技場
- ・9月13日（土）卓球競技  
／豊見城市民体育館
- ・9月27日（土）水泳競技  
／奥武山公園
- ・10月11日（土）陸上競技  
／沖縄市陸上競技場（台風により中止）



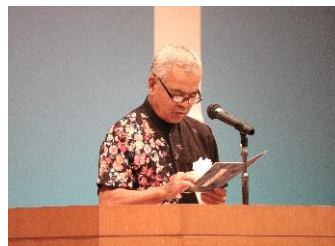
## 第58回

### 沖縄県身体障害者福祉大会

令和7年11月30日（日）『南風原町立中央公民館 黄金ホール』にて、表記大会を開催しました。今大会のオープニングには津嘉山女童白太鼓保存会による、ウスデークで成功を祈願していただきました。



第1部では、大会副会長を務める南風原町身体障害者福祉会 金城則文 会長より、大会スローガン【障がい者の防災計画の推進と心でつながる共生社会の実現を！】のもと、誰もが安心して暮らせる共生社会の実現をめざし、一致団結し行動することが宣言されました。また、県内の身体障害者福祉に貢献があった方々、福祉展の受賞者への表彰も行われました。



第2部は、開催地 南風原町のご当地アイドル Beaury's のダンスパフォーマンスで幕が開け、その後、沖縄県土木建築部 海岸防災課による『沖縄県の土砂災害対策について』お話頂きました。

そして、エンディングはハートフルシンガーの大城友弥さんによる、トーク＆ライブが行われ、最後には会場みんなでカチャーシーを踊り、福祉大会が締めくくられました。



## 沖 縄 サ ッ プ 教 室

ウォータースポーツ・サップ（SUP：スタンドアップパドルボード）を用いて、水上ならではの体験の機会を創生するとともに、障害に対する知識と支援の実技を通じて地域の支援者を育成することを目的に、令和 7 年 9 月 2 0 日（土）「広島文化学園大学はなまるキッズ」の皆様と共同で『沖縄サップ教室』を開催しました。



広島県から 6 名の講師が来沖。豊崎美ら SUN ビーチ協力のもと午前中は沖縄らしい晴天のもとと支援者向けの研修を行い、午後からの障害児・者のサップ体験を進めていたところ、雲行きが怪しくなり、大雨悪天候……。それでも、少しの時間でも体験したい！してもらいたい！という想いで、雨や波の状況を注視しながら実施しました。



普段、海に触れる機会が少ないという参加者も、ご家族やご友人、支援者らと共に潮風・波の揺れ・水しぶきを感じながら日常とは違った感覚を得ていた様子でした。

初めての取り組みで、陸スポーツとは違った視点での準備運営でしたが、参加者の皆様からは多くのご好評をいただきましたので今後も開催できるよう企画検討していきます。



## 第20回3村身協スポーツ交流会 （国頭村・大宜味村・東村）

令和 7 年 1 2 月 2 日（火）、名護市名桜ボウルを会場に、沖縄県本島北部の国頭村、大宜味村、東村の身体障害者協会の皆さんが集まりスポーツ交流会（ボウリング）が開催されました。

競技は 2 ゲームの合計スコアを競う形で行なわれました。ガーター無しのため人によってはボールが右に左にいたりきたり…左右に行き過ぎたボールを皆が「もっと右にいけ」「そのまま！そのまま」などと手で仰ぎながら応援したり賑やかな雰囲気でした。ストライクが出たら村の垣根を越えて皆で喜ぶ様子も印象的でした。



今回のヒーローは大宜味村の赤嶺さん。なんと 3 回連続ストライクを出し『ターキー』達成(^^^\*)。1 ゲーム目では思うようにスコアが出ませんでしたが、2 ゲーム目「だんだんわかってきた…！」の言葉とともにどんどん調子を上げていき、見事なターキーとなりました。



表彰式では司会者の「自分が 1 番だと思う人？」の呼びかけに、一斉に手を挙げる皆さん。賞品もかかっているの皆さんが一番元気な瞬間でした(笑)

こうして他市町村身障協が集まり交流を深めていく行事も、皆さんの刺激になって良いものだなと思いました。



**MAIL : okisin.sub@gmail.com**